

# デイサービス しよこら



かしわ  
柏うお～か～

デイサービスしよこら（株式会社日本クリード）は、これまで柏市大山台にありましたが、今年7月より、JR北柏駅近くに移転しました。あいネットで見学会に参加をさせて頂きました。

デイサービスしよこらは、障害福祉サービスの「生活介護」施設です。生活介護施設では、日常生活または社会生活ができるよう、入浴、排せつおよび食事の介護、創作活動または生産活動の機会の提供ほかを行います。

日中活動として、調理実習・おやつ作り・創作活動・内職・手作業（ビーズ作り・切り絵・手芸）、体操（ラジオ体操・ストレッチ他）、散歩、ドライブ・習字・石鹸づくり等を行っています。定員は20名です。



朝の9時30分から15時30分まで日中活動を行っており、色々なプログラムが提供されています。朝の体操に始まり、ドライブや地域清掃、調理実習など、楽しい体験が出来るプログラムがあります。他にも、毎月月末には利用者さんの誕生会を行い、簡単なお菓子作りを一緒に行ったり、健康管理のために野外活動（散歩やドライブ）を積極的に取り入れているとの事です。

デイサービスしよこらの向かいには、自立支援塾クリード北柏（自立訓練（生活訓練）・就労継続B型・日中一時支援事業）があります。こちらでも日々の訓練や作業だけでなく、日帰り旅行・バーベキュー・ボーリングなどの様々な楽しいイベントも行われています。



デイサービスしよこらは、アットホームな環境の中で毎日明るく楽しく生活をしています。新しくきれいな建物に移転したデイサービスしよこらへ、気になる方は、ぜひ見学に行かれてみてはいかがでしょうか。



一泊旅行途中の全体写真

＜問い合わせ＞  
○デイサービスしよこら  
生活介護  
  
○〒277-0832  
○千葉県柏市北柏1-6-7  
OTEL：04-7197-2403



「じんけん」ほ°ん  
(2014.9/No125)

## 平成26年度 第二回あいネット運営委員会

発行日 2014/9/9

社会福祉法人生活クラブ  
柏市地域生活支援  
センターあいネット  
〒277-0004  
柏市柏下65-1  
ウェルネス柏内  
電話：04(7165)8707

8月20日に第2回あいネット運営委員会が開催されました。運営委員会は、柏市地域生活支援センター事業の進捗報告や連携のあり方を検証するために行われています。今年度も柏市内の医療、福祉、就労、法律各分野の団体・機関や当事者にご参加いただき、年4回の開催予定です。今回の議題は「ユニバーサル就労について」。生活クラブ風の村 ユニバーサル就労支援室 室長 平田智子さんからのお話、各委員からの意見交換、情報提供がなされました、以下、お話の抜粋です。

「中間的就労の理念と実践 ～ユニバーサル就労というはたらき方～」  
・ユニバーサル就労システムについて  
・風の村での実践  
・生活困窮者自立支援法とユニバーサル就労

・ユニバーサル就労とは（Universal work）略してUW

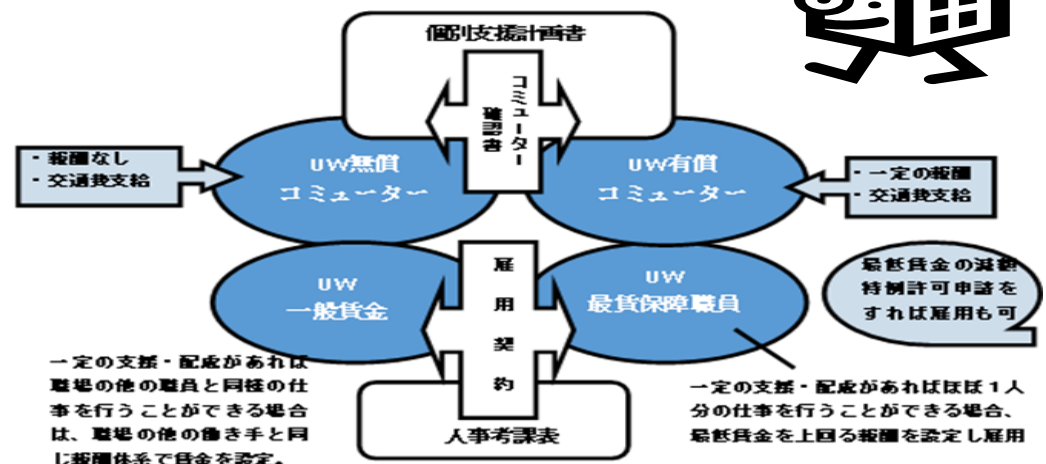
◆対象

障害者手帳の有無に関わらず、障がいがあったり、生活困窮状態にあるなど、様々な理由で働きづらい状態にある方を迎え入れ、ともに働くことを目指しています。

◆形態

現在の雇用形態にはなじみづらい方であっても、例えば、短時間や週1回から等、個性や事情に合わせた多様な働き方（雇用につながる方・コムーターとして居場所や生きがいに結び付く人）をつくり出していきます。誰にとっても働きやすく、働きがいのある「ユニバーサルな職場環境」を目指しています。

・「会社ではたらくこと」を実現するために  
◆対価と形態について（下図参照）



・業務分解とは

◆目的と効果

業務分解を行うことで、業務全体が整理され、客観的に業務内容を確認することができる。ユニバーサル就労の受入れのためだけでなく、日頃の仕事内容の見直し、効率化、標準化ができる。





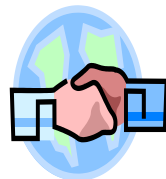


### ・継続・キャリアアップのための支援

就労を始めてからも、1人ひとりに合わせた目標などを設定し、ステップアップを支援していきます。  
就労している本人と職場の1対1の関係では、どちらかにストレスのかかってしまうことがあるため、人事担当者やユニバーサル就労支援室などの内部就労支援部署や、外部支援団体（・ユニバーサル就労ネットワークちば ・障害者就業・生活支援センター・中核地域生活支援センター等）と協力しながら、その人の「会社で働く」を一緒に支えていきます。

### ・事例紹介 今後に向けて

「生活クラブ風の村 ユニバーサル就労の現状」 対価・形態別の人数（2014年4月1日）  
一般就労へ移行した方2名を含めて、無償、有償コンピューター等、計72名となっています。割合は、UW最賃保障職員が41名と多くなっています。  
社会では、まだまだ様々な理由で働きづらい方の受け手が少ない現状です。  
そのような方たちが社会に出ていき、働けるよう、ユニバーサル就労支援室は業務を行って参ります。



### 委員の方からは

「プライベートな相談はどこまで受けるのか？パートナーシップで心がけていることは？」  
UW：「どこまで受けるべきか悩んでいる。他機関とも連携し取り組んでいる。元々関係があった人と本人が誰にでも相談できるよう、連携、情報共有を大切にしている。」

「本人の障害特性を知るには、数年かかることもざら。障害者就労の週20時間が、敷居が高く感じる方が非常に多い。企業で働きたい、そう思う人は多くいる。その様な方達のニーズに応えることができるユニバーサル就労は大変有意義だと思う。」  
等々、たくさんの意見があがりました。



### 「感想」

働きたいけれど、なんらかの事情があり働きづらい方、障害があるけれど作業所ではなく会社で働きたい方。週20時間は働けないけれど、少ない時間であれば働ける方。  
その人にとって働ける仕事、働ける時間は様々です。企業など、受け手が工夫していけば新たな仕事生まれ、それをこなしていける方が働くことができます。  
ただし、委員の方からもありましたが、その受け手が少ない、業務を見直している余裕がないことも事実だと思います。ご本人の支援はもちろんの事、受け手側への事業促進、開拓も重要だと思います。

## 第6回 聖徳大学心理教育相談所主催講演会に参加しました

『自らの悩みにどう向き合うか～うつと不安を理解するための認知行動理論～』に参加してきました。  
今回のテーマは、「なぜ、うつや不安が生じるのか？」、また、その「うつと不安に対する個々人の捉え方、行動への影響を考えながら」でした。  
それらの解決策として、物事の捉え方、見方を変える事により「うつや不安を和らげる為の対処法である『認知療法』」についての講演でした。  
当日は、聖徳大学生涯学習社会貢献センターのある、聖徳大学10号館（14階）の教室にて行われましたが、定員100名を越える参加者の方が来場され、関心の高さが伺えました。

講義内容は大きく分けて、『①うつ等の心の状態』と『②不安等によるパニック発作』への対処方法。日常の出来事の捉え方を、普段より少し気楽に捉えられると、より日常生活を円滑に営めるとの事でした。  
例えば、「友達からバースディ・カードを贈って頂けなかった場合」に「友達が自分を嫌いになったのかも」と推論してしまう事などです。もしかしたら、「友達は、バースディ・カードを贈り忘れていただけ」かもしれません。他に別の例を挙げると、「職場において、同僚から仕事の進め方について批判された場合に、批判された事だけに注目」をして、「同僚が、自分の事を嫌っている」と推測してしまった場合です。もしかしたら「同僚は、仕事の進め方をアドバイスしただけ」かもしれません。  
もし、上の例にあるようなことを経験された事が記憶にある方は、そう考えてしまう根拠は何だろう？ほかの考え方や、見方はできないだろうか？ と、自問して頂く事だけでも、物事に対する視野が広がるかもしれません。

今回の講演会では、日常生活における考え方には、様々な考え方や捉え方を可能にするコツを知る、とても良い機会となりました。日々の暮らしをより豊かに生きるヒントとして、『物事の捉え方と、行動への影響』について書かせて頂きました。

## H26年度柏市地域生活支援センター連絡調整会議



7月31日に柏市地域生活支援センター連絡調整会議が開催されました。  
連絡調整会議は、「あいネット」と庁内の関係各課が、相互理解の下に支援サービスを展開することで、質の高い事業展開を目指すことを目的としています。年2回開催され、庁内の関係課の方に出席をして頂いています。  
今回の議題は、H27年度施行の生活困窮者自立法による実施事業について。

### 生活困窮者自立支援法とは？

現在、生活保護を受給していないが、生活保護に至る可能性のある者で、自立が見込まれる者に対して、生活保護に至る前の段階で早期に個別的・包括的に支援をする。  
柏市では自立相談支援事業（相談支援）、居住確保支援（家賃補助）、就労準備支援事業（就労支援）、家計相談支援事業、学習支援等を実施。H25.4～あいネットがモデル事業を実施しており、H27.4～法律の施行予定。



会議の中で課題がいくつか挙げられました。

### ①地域づくりの必要性

生活困窮者は複数の課題を抱えている。あいネットが単独で課題を解決する事は難しく、それぞれの担当課、地域の資源の力を借りることが大切。民生委員をはじめとして地域の力を引き出し、様々なところにアンテナを張り巡らしていきたい。この事業は地域づくりの視点を持っており、各ネットワークをどう作り上げるかが課題。

### ②就労の場の必要性

就労を出来る方に対し多様な就労の場が必要。ブランクがある方について就労の体験が出来る場所も必要である。そういう場所の開拓もこの事業の役割となっているため、実現にあたり市とも協力をしていきたい。

### ③保険年金課との連携

保険料を事情があって納められない方に保険相談を行っている。様々な相談を日々受けており、その中で生活困窮者も必ずいる。そういう発見をした場合、多重債務は消費生活センターに案内しているが、あいネットも併せて案内していきたい。

### ④引きこもり支援のネットワーク作り

引きこもりを抱えている家庭は多い。多くは親からの相談であり、親は疲弊している。医療が必要と思われるケースは保健所にも相談はしており、連携はしているが、複合課題を抱えている家族に対して関係各課が相談できる場があればいいと考えている。

庁内の関係課との連携の中で、生活困窮者を早期に発見し、支援をしていく体制を作っていく事が必要であると改めて感じました。



## お知らせ

こちらのコーナーへ掲載希望の方はあいネットまで  
(TEL：04-7165-8707 FAX：04-7165-8709)

### 社会福祉法人緑の会 いずみ園 22周年記念講演会

### 「重度障害児者が地域で健康に過ごすためには」

日時：2014年10月13日（月）  
受付/10：00 開会/10：30 講演会/11：00  
（終了/1200）  
会場：いずみ園内 （柏市逆井341番地）

料金：無料 申込〆切：10/6

主催：社会福祉法人緑の会 生活介護事業所 いずみ園

住所：千葉県柏市逆井341番地

講師：植松 潤治 先生 （滋賀県障害児者と父母  
の会連合会代表、医学博士）

TEL/FAX：04-7176-8085：04-7176-8087